

タワー方式太陽熱発電プラント向け
「太陽追尾駆動装置」を受注

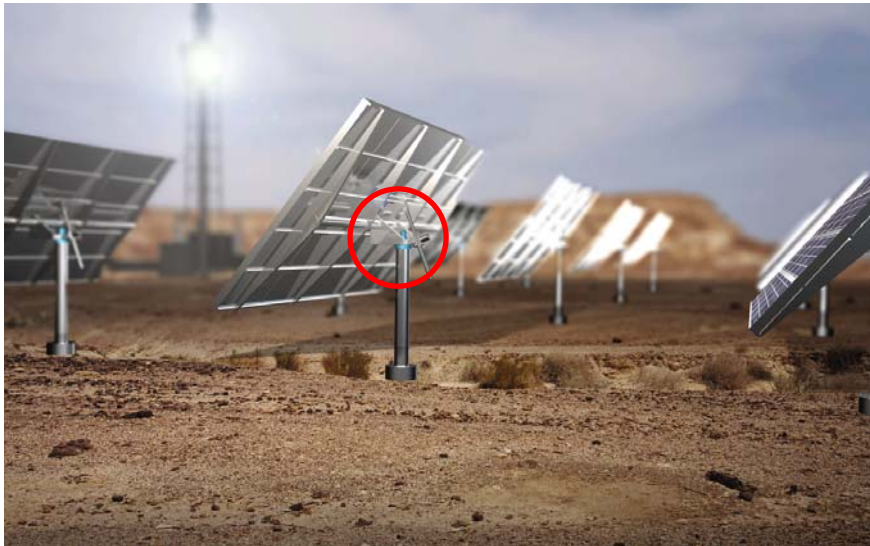
ナブテスコ株式会社（本社：東京都千代田区、社長：小谷和朗）はこの度、太陽熱発電プラントのEPC事業者（Engineering, Procurement, Construction）であるCobra Thermosolar Plant社（米国）から、太陽熱発電プラントに設置される太陽追尾駆動装置（旋回軸）を受注いたしましたのでお知らせいたします。当該装置は、同社がEPC事業者としてエンジニアリング・建設・試運転を請け負う、米国ネバダ州トノパのCrescent Dunes Thermosolar Power Plantに使用されます。

太陽熱発電には、タワー方式、トラフ方式、ディッシュ方式がありますが、タワー方式は、それらの中で、今後もっとも普及すると見込まれている方式です。当社が受注した太陽追尾駆動装置（旋回軸）はタワー方式太陽熱発電プラントにおいて、太陽光を反射させる鏡（ヘリオスタット）を太陽の動きに追尾させて中央タワーへ集光するための装置です。2012年度中の納入を予定しております。

当社はこれまで産業用ロボット向け精密減速機の世界最大のサプライヤーとして実績を築いてまいりましたが、今回の受注により新たに太陽熱発電分野へ精密減速機を事業展開することになります。



※タワー方式太陽熱発電プラント（イメージ）



※ヘリオスタットに装着された太陽追尾駆動装置（旋回軸）（イメージ）

【Crescent Dunes Thermosolar Power Plantについて】

Crescent Dunes Thermosolar Power Plantは、110MW級のタワー方式太陽熱発電プラントで、Tonopha Solar Energy 社が米国ネバダ州トノパに建設を進めています。同社は、本プラント運営会社であり、太陽熱発電事業の有力ディベロッパーである米国SolarReserve社の関係会社です。

【SolarReserve社について】

SolarReserve社は、米国カリフォルニア州サンタモニカに本社を置く、全世界で大型太陽エネルギープロジェクト開発事業を展開する企業です。

現在、米国ネバダ州トノパに建設を進めている、110MWのCrescent Dunes Thermosolar Power Plantは、タワー方式としては世界最大規模のものであり、また、太陽光発電、トラフ方式太陽熱発電に比べ2倍の発電が可能で、太陽熱発電技術の新たなスタンダードを確立するものであります。SolarReserve社の溶解塩を使ったタワー方式技術は、1990年代後半に米国エネルギー省の支援下で、成功裏に実証された技術です。

以上